

『動脈硬化』と言われた方に精密検査をお勧めします。

富山労災病院中央検査部臨床検査技師 藤田みずほ

自分の健康状態を知ることによって、病気に早く気づき、予防や治療が可能になります。また、自分の体が健康な状態であることを確認できれば、安心して仕事や趣味に集中できると思います。生活習慣病（高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙など）は動脈硬化を進行させるので注意が必要です。動脈硬化は血管の弾力性が失われ、固くもろくなることですが、初めのうちは自覚症状がほとんどありません。進行すると、血管の内側にプラークと呼ばれる塊（かたまり）ができ、血液の通り道が次第に狭くなります。さらに症状が進むと血栓ができて血管が詰まってしまいます。

この現象が心臓の血管で起きると心筋梗塞、脳の血管で起きると脳梗塞といった、命に係わる重大な病気を招きます。生活習慣病の予防や早期発見のため、健診を上手に役立ててください。健康診断で『動脈硬化』の精密検査が必要と言われた方は、二次検診受診をして医師に相談しましょう。『動脈硬化』の検査として以下のものがあります。

①ABI・PWV 検査（両手足の血圧を同時に測定し血管の硬さや詰まりを調べる）

②頸動脈超音波検査（首の血管内のプラークや狭さを調べる）

①ABI・PWV 検査

ベッドの上で仰向けになり、両側の腕と足首に、血圧計の帯（カフ）、心電図の電極、心音マイクを装着し測定します。その結果をコンピューターによって数値化します。所要時間は5分程度です。

②頸動脈超音波（エコー）検査

ベッドの上で仰向けに寝た状態で枕を外し、首の部分にゼリーを塗りプローブをあてて検査をしていきます。左右合わせて20分程度で終了する検査です。痛みはなくリラックスして受けていただけます。

